

【週刊タバコの正体】

Vol.57 第9話～第10話

2024年03月

和歌山工業高校 奥田恭久



Serial number **779**

第9話

週刊 **タバコの正体**

皆さん、生命保険の事は知っているでしょうか。万が一の病気や不慮のケガ、または死亡した場合に備えた費用を前もって蓄えておく制度です。定期的に保険料を支払っておき、万が一の際の費用を保険金として受け取れるわけです。

●適用保険料率決定の流れ



●【保険料水準】



そんな保険に加入すると、一般的に毎月定額を保険料として支払います。その保険料は当人の健康状態によって決まる場合が多く、上図のように喫煙するかどうかで保険料率が変化するケースも少なくありません。つまり、タバコを吸っている人より吸わない人の方が健康だと評価され、上図の保険料水準を見ると、非喫煙者優良体料率より喫煙者料率が当然大きくなっています。具体的には、下図のように喫煙者はタバコを吸わない人の倍額近い保険料を支払う例もあるのです。

いかがでしょうか。皆さんはまだ家族の一員として養ってもらっていますが、いずれ自立し自分の家族の生計をたてて行くことになるでしょう。そうなれば、万が一に備え保険に加入する事も考えておかなければなりません。その際、もしタバコを吸い始めては、高い保険料を支払う事になってしまいます。

健康状態

喫煙者標準体料率

4,185円

48.9% 割引

健康状態

非喫煙者優良体料率

2,136円

タバコを吸わないければ健康なうえに安上がりだと心得ておいて下さい。

産業デザイン科 奥田恭久



■Vol. 57

(No. 779) 第9話 健康で安上がり

ータバコを吸わない健康な人の方が保険料は安い...

皆さん、生命保険の事は知っているでしょうか。万が一の病気や不慮のケガ、または死亡した場合に備えた費用を前もって蓄えておく制度です。定期的に保険料を支払っておき、万が一の際の費用を保険金として受け取れるわけです。

そんな保険に加入すると、一般的に毎月定額を保険料として支払います。その保険料は当人の健康状態によって決まる場合が多く、上図はその一例です。じつは、この例のように喫煙するかどうかで保険料率が変化するケースも少なくありません。つまり、タバコを吸っている人より吸わない人の方が健康だと評価され、上図の保険料水準を見ると、非喫煙者優良体料率より喫煙者料率が当然大きくなっています。具体的には、下図のように喫煙者はタバコを吸わない人の倍額近い保険料を支払う例もあるのです。

いかがでしょうか。皆さんはまだ家族の一員として養ってもらっていますが、いずれ自立し自分の家族の生計をたてて行くことになるでしょう。そうなれば、万が一に備え保険に加入する事も考えておかなければなりません。その際、もしタバコを吸い始めては、高い保険料を支払う事になってしまいます。

■Vol. 57

(No. 780) 第10話 タバコを吸わない傾向

ーあらたにタバコを吸い始める若者が減っている...

上図は厚生労働省の「国民生活基礎調査の概況」の最新版となる令和5年版(2022年版)から都市別の年代別喫煙率データから作成されたグラフです。

どの都市も40歳～50歳代が高く、20歳代・70歳代で低くなっています。各都市を見比べると人口が多い東京の喫煙率が特に低く、どの年代でも30%を下回っているのが、多くても10人に3人しか喫煙者がいないのです。多くの人が暮らす都会ではタバコの被害を意識する機会が多いのでしょうか。

そしてもう一つ、全国的に20歳代の喫煙率が低い事にも注目してください。「最近の若者はタバコを吸わない」傾向が定着しつつあるように感じます。皆さんのように、タバコの有害性や不慣れ性などを知ったうえで成人を迎えている人が増えているからだと思います。見方を変えれば、それを知らずにタバコを吸い始めてしまった年代の喫煙率が高いのでしょう。

タバコを正しく知ったうえで成人する人ばかりになれば、「最近はずもタバコを吸わない」と感じる時代になるかもしれません。

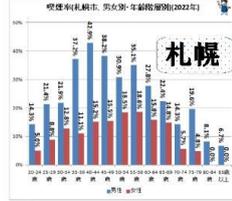


Serial number **780**

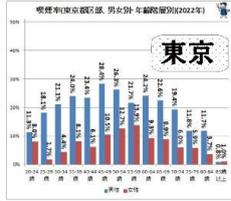
第10話

週刊 **タバコの正体**

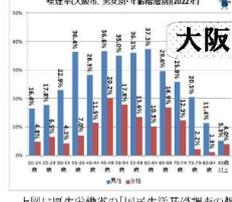
喫煙率(札幌市: 男女別・年齢階層別(2022年))



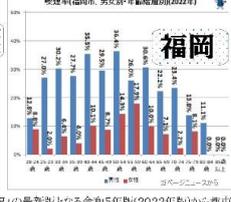
喫煙率(東京都: 男女別・年齢階層別(2022年))



喫煙率(大阪市: 男女別・年齢階層別(2022年))



喫煙率(福岡市: 男女別・年齢階層別(2022年))



上図は厚生労働省の「国民生活基礎調査の概況」の最新版となる令和5年版(2022年版)から都市別の年代別喫煙率データから作成されたグラフです。

どの都市も40歳～50歳代が高く、20歳代・70歳代で低くなっています。各都市を見比べると人口が多い東京の喫煙率が特に低く、どの年代でも30%を下回っているのが、多くても10人に3人しか喫煙者がいないのです。多くの人が暮らす都会ではタバコの被害を意識する機会が多いのでしょうか。

そしてもう一つ、全国的に20歳代の喫煙率が低い事にも注目してください。「最近の若者はタバコを吸わない」傾向が定着しつつあるように感じます。皆さんのように、タバコの有害性や不慣れ性などを知ったうえで成人を迎えている人が増えているからだと思います。見方を変えれば、それを知らずにタバコを吸い始めてしまった年代の喫煙率が高いのでしょう。

タバコを正しく知ったうえで成人する人ばかりになれば、「最近はずもタバコを吸わない」と感じる時代になるかもしれません。

産業デザイン科 奥田恭久



毎週火曜日発行

URL: https://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_index.html



※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
 ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
 ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

